

# 東大阪市スポーツ推進計画

平成 31 年 3 月

東大阪市



## 目次

第1章 計画策定にあたって	2
I. スポーツの価値と国の動向	2
II. 東大阪市の取組み状況	3
III. 計画策定の趣旨	3
IV. 本計画におけるスポーツの定義と関わり方	4
第2章 計画のあらまし	5
I. 基本理念（めざす姿）	5
II. 計画期間	6
III. 計画目標	6
IV. 基本方針	7
第3章 東大阪市のスポーツの現況と課題	8
I. 市政モニターアンケートを活用した意識調査	8
II. 課題A（スポーツ実施を促進するための課題）	15
III. 課題B（スポーツを通じたまちづくりの課題）	17
第4章 スポーツ関連施策	18
I. 基本方針と施策展開の戦略	18
II. 行政分野ごとのスポーツ関連施策	23
第5章 計画推進のために	25
I. 施策展開における協働の推進	25
II. 計画推進のための財源確保	25
III. 計画の評価、見直し	25

## 第1章 計画策定にあたって

### I. スポーツの価値と国の動向

スポーツ基本法において、スポーツは世界共通の人類の文化として位置付けられ、スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、全ての人々の権利であると規定されています。そもそもスポーツは、体を動かすという人間の本源的な欲求に応え、精神的充足や楽しさ、喜びをもたらすという内在的な価値を有するとともに、青少年の健全育成や、地域社会の再生、心身の健康の保持増進、社会・経済の活力の創造、我が国の国際的地位の向上など、国民生活において多面にわたる役割を担い、特に近年はその有用性への期待が益々高まっています。これを受け、平成29年3月に策定された第2期スポーツ基本計画では、スポーツの価値をより多くの人々が享受すべく、スポーツを「みんなのもの」として捉え「する」、「みる」、「ささえる」といった様々な形で積極的にスポーツに参画することができる取組みについて謳われるなど、スポーツ参加人口の拡大がスポーツ立国に不可欠な課題であると位置付けられています。

また、国民の健康意識の向上や眼前に迫るゴールデン・スポーツイヤーズによるスポーツへの関心の高まりを受け、スポーツ関連産業の成長が期待されており、その市場規模の拡大を加速すべくスポーツ用品や健康産業、スポーツツーリズムなど多分野にわたり経済活性化を図るための活動が官民双方において活発化しています。

### スポーツが果たす役割

1  
青少年の健全な  
心身の育成

2  
地域の一体感や  
活力の醸成

3  
健康で活力に満ちた  
長寿社会の実現

4  
人間の可能性の  
極限の追及

5  
社会活力の創出と  
経済発展への寄与

6  
国際相互理解と  
交流の促進

## Ⅱ. 東大阪市の取組み状況

本市では、全国高等学校ラグビーフットボール大会が昭和38年から花園ラグビー場で開催されており、花園ラグビー場はラグビーを楽しむすべての人の憧れの聖地として広く知られています。本市は平成3年に「ラグビーのまち東大阪」を表明し、ラグビーのもつ団結力や力強さといったイメージを活かしたまちづくりを進めています。平成27年3月にはかねてから誘致を進めていたラグビーワールドカップ日本大会の競技開催都市に決定。来る2019年に向け花園ラグビー場を改修するとともに、市民・事業者・行政が協働して大会成功に向けた機運醸成に取り組んでいます。

また、ラグビーワールドカップの2年後には生涯スポーツの国際総合競技大会であるワールドマスターズゲームズが関西で開催されます。本市は、ラグビーフットボール競技の開催都市に決定しており、ラグビーワールドカップとともに、2つの国際大会のレガシーをまちづくりに活用することが求められています。さらに、2020年の東京オリンピック・パラリンピックを加えた3大会が開催されるゴールデン・スポーツイヤーズの3年間を地域活性化の千載一遇の機会と捉え、スポーツを活用したまちづくりを計画的かつ効果的に進める必要性が高まりました。

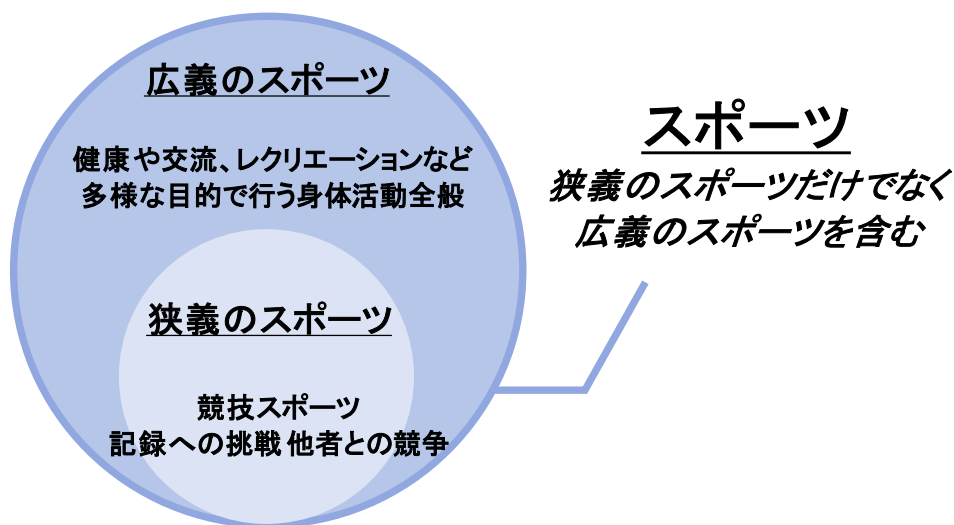
## Ⅲ. 計画策定の趣旨

スポーツが果たす役割に改めて注目が集まるなか、地方自治体においてもスポーツを通じたまちづくりを進める機運が高まり、ハード・ソフト両面において様々な取組みが展開されています。本市においても、スポーツを地域課題解決のツールとして積極的な活用を推進するため、平成29年度にスポーツのまちづくり戦略室を新設しました。本計画はスポーツのまちづくりを計画的かつ効果的に展開するための道標として位置付けるものであり、本市のスポーツを取り巻く現状と課題を明らかにするとともに、庁内各部局との連携を図ることで、多岐にわたる行政分野においてスポーツの活用を進める基礎となる施策体系を示すために策定するものです。

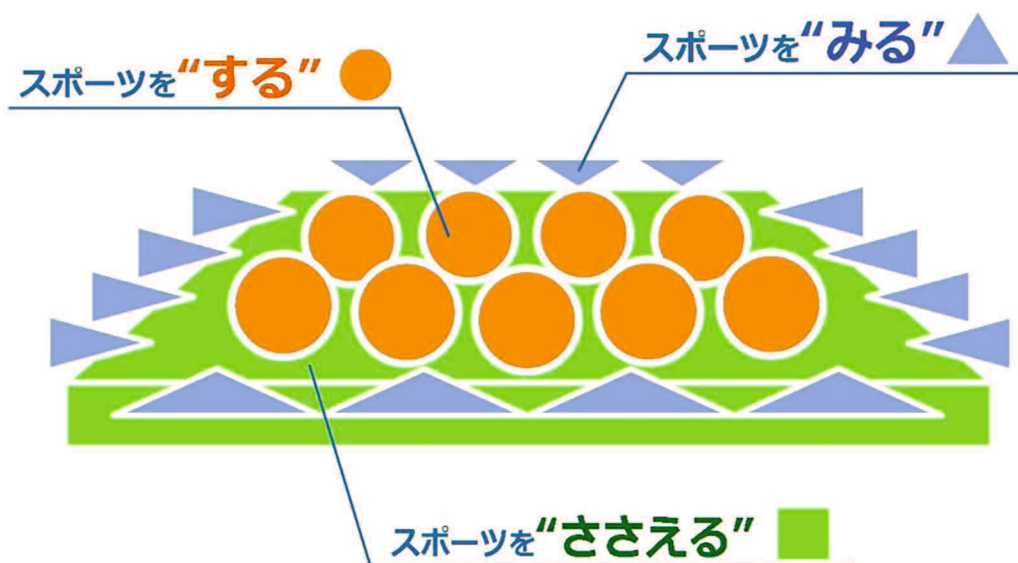
#### IV. 本計画におけるスポーツの定義と関わり方

本計画では、競技として競ったり限界に挑戦したりするものだけでなく、自らの健康のために行う運動や仲間との交流など多様な目的で行う身体活動全般を広くスポーツとして捉えるとともに、スポーツに関わる方法を「する」、「みる」、「ささえる」に大別しています。

### 本計画で取り扱うスポーツの範囲



### スポーツへの関わり方



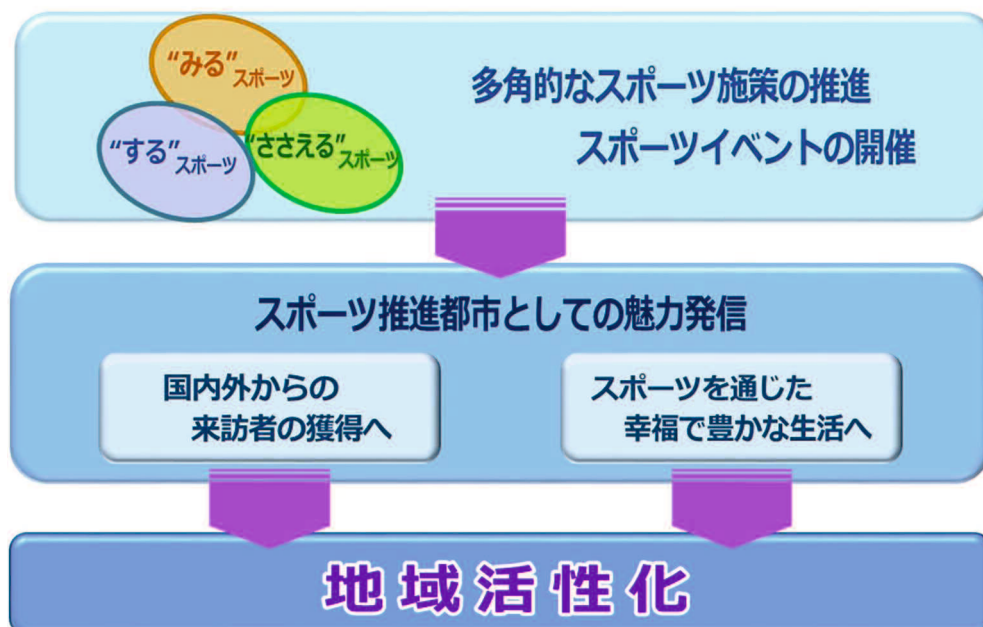
## 第2章 計画のあらまし

### I. 基本理念（めざす姿）

スポーツで「かがやく」「ひろがる」「つながる」まち  
ひがしおおさか

一人ひとりがスポーツに親しみ スポーツで「かがやく」  
人生の豊かさ ささえる心が スポーツで「ひろがる」  
人と人 東大阪市と世界が スポーツで「つながる」

### 東大阪市が考えるスポーツによる地域活性化



## Ⅱ. 計画期間

2019年度から2023年度（5カ年度）  
 社会情勢や国・大阪府、他の自治体の動向を注視し、適宜計画の見直しを行います。

年度	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (H31)	2020	2021	2022	2023
国	第2期スポーツ基本計画						
大阪府	第2次大阪府スポーツ推進計画						
東大阪市			東大阪市スポーツ推進計画				
社会的要因			RWC 2019	東京2020 オリ・パラ	WMG2021 関西		

## Ⅲ. 計画目標

**スポーツ参画人口の拡大（スポーツ実施率65%を目指します）**

国がスポーツ基本計画において設定した目標を参考に、「週に1回以上、運動・スポーツを実施する成人の割合」を65%にすることを目指します。

	基準年度					目標年度
成人の スポーツ実施率	42.1%	46.0%	50.0%	55.0%	60.0%	<b>65.0%</b>
(増加目標)	3.9%		4.0%	5.0%	5.0%	5.0%
年度	2018 (H30)	2019 (H31)	2020	2021	2022	2023



#### IV. 基本方針

スポーツを通じたまちづくりを進めるにあたり、ラグビーをはじめとするスポーツそのものだけでなく、花園ラグビー場やスポーツボランティアの人材など有形無形に関わらずスポーツに関わりを持つあらゆるモノを有用な地域資源として捉え、地域活性化を推進するツールとして活用します。

特にスポーツがその有用性を発揮すると考えられる分野に係る施策を重点的に推進すべく以下4つの基本方針を定め、関係団体および関係部局との連携のもと取組みを進めます。

- (1) スポーツに参画する多様な手段と機会の創出
- (2) スポーツを通じた心身の健康と活力の増進
- (3) スポーツを活用した経済活性化と魅力の創造
- (4) スポーツを契機とした共生社会の実現

#### スポーツによるまちづくりのイメージ



### 第3章 東大阪市のスポーツの現況と課題

#### I. 市政モニターアンケートを活用した意識調査

##### (1) 市政モニターアンケートの趣旨

市政モニターアンケートは、市政の重要な課題や市民生活に関係の深い問題等について、市民の意識、意見等を迅速かつ効率的に把握するとともに、市政への関心を高め、市民参加を促進することを目的としています。

##### (2) 市政モニターアンケートの実施概要

回答者数／全モニター数 242名／300名（回答率 80.7%）

アンケート実施期間 平成30年6月4日～平成30年6月18日

#### モニター内訳

	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	合計
男性	0人	6人	19人	24人	20人	43人	112人
女性	1人	29人	49人	49人	45人	15人	188人
合計	1人	35人	68人	73人	65人	58人	300人

#### 回答者内訳

	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	合計
男性	0人	4人	16人	18人	15人	38人	91人
女性	1人	23人	35人	42人	38人	12人	151人
合計	1人	27人	51人	60人	53人	50人	242人

(3) 市政モニターアンケートの結果

① 性別、年代別のスポーツ実施率

過去の1年間に運動やスポーツをしたかどうかを質問したところ、全体では71.9%が何らかの運動やスポーツをしたと回答し、うち週1日以上の実施頻度の割合は42.1%でした。男女別では男性の方が運動やスポーツをした割合、実施頻度とも高い傾向にあります。

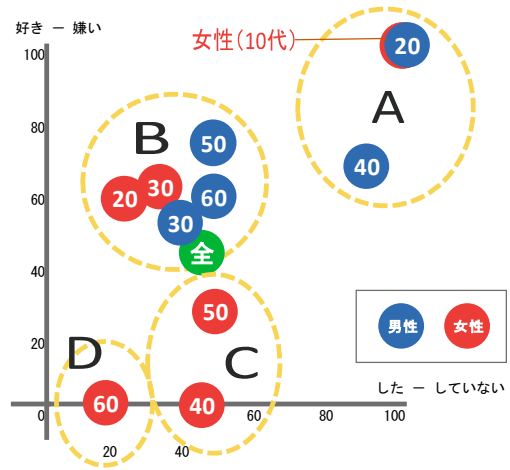
また、年代別では実施率、実施頻度ともに40代以上が20代、30代に比べて高くなる傾向が見られました。ただし、性別、年齢別の集計結果では同年代でも性別により異なった傾向が顕出しており、注視が必要です。

	運動やスポーツをした			運動やスポーツをしなかった (分からないを含む)			
	人数	割合	うち週1日以上	人数	割合		
全体	174人	71.9%	42.1%	68人	28.1%		
男性	71人	78.0%	45.1%	20人	22.0%		
女性	103人	68.2%	40.4%	48人	31.8%		
10代	1人	100.0%	100.0%	0人	0.0%		
20代	18人	66.7%	37.0%	9人	33.3%		
30代	34人	66.7%	23.5%	17人	33.3%		
40代	47人	78.3%	38.3%	13人	21.7%		
50代	39人	73.6%	50.9%	14人	26.4%		
60代以上	35人	70.0%	58.0%	15人	30.0%		
男性	10代	0人	—	0人	0.0%		
	20代	4人	100.0%	50.0%	0人	0.0%	
	30代	11人	68.8%	18.8%	5人	31.3%	
	40代	17人	94.4%	33.3%	1人	5.6%	
	50代	11人	73.3%	46.7%	4人	26.7%	
	60代以上	28人	73.7%	60.5%	10人	26.3%	
女性	10代	1人	100.0%	100.0%	0人	0.0%	
	20代	14人	60.9%	34.8%	9人	39.1%	
	30代	23人	65.7%	25.7%	12人	34.3%	
	40代	30人	71.4%	40.5%	12人	28.6%	
	50代	28人	73.7%	52.6%	10人	26.3%	
	60代以上	7人	58.3%	50.0%	5人	41.7%	

② スポーツの実施率とスポーツの好き嫌い

スポーツをすることが好きかどうかを質問したところ、好き、どちらかと言えば好きを合せて 71.1%との結果でした。男女別では男性の方がスポーツや運動を好む傾向があり、40代以上の女性では嫌い、どちらかと言えば嫌いと回答する割合がやや高くなりました。

また、実際の実施状況と比較すると、右図のように概ね4つのグループに大別されました。A群はスポーツを好み、実施率も高く、20代と40代の男性にその傾向が見られました。B群はスポーツを好むものの、実施に至らない層が一定数いるためA群と比較して実施率がやや低下しています。特に20代と30代の女性にこの傾向が見られました。C群は実施率は低くないものの、スポーツを好まない割合が比較的高く、D群はスポーツを好む割合、実施割合が共に低く、60代以上の女性にこの傾向が見られました。



		好き			嫌い			実施の有無 合計
		好き	どちらか と言えば	することが好き	どちらか と言えば	嫌い	することが嫌い	
全体		76	96	172	60	10	70	174
	割合	31.4%	39.7%	71.1%	24.8%	4.1%	28.9%	71.9%
男性	10代	0	0	0	0	0	0	0
	割合	—	—	—	—	—	—	—
	20代	2	2	4	0	0	0	4
	割合	50.0%	50.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	30代	9	3	12	3	1	4	16
	割合	56.3%	18.8%	75.0%	18.8%	6.3%	25.0%	68.8%
	40代	9	6	15	3	0	3	18
	割合	50.0%	33.3%	83.3%	16.7%	0.0%	16.7%	94.4%
50代	5	8	13	2	0	2	15	
割合	33.3%	53.3%	86.7%	13.3%	0.0%	13.3%	73.3%	
60代以上	11	19	30	6	2	8	38	
割合	28.9%	50.0%	78.9%	15.8%	5.3%	21.1%	73.7%	
女性	10代	1	0	1	0	0	0	1
	割合	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	20代	6	12	18	3	2	5	23
	割合	26.1%	52.2%	78.3%	13.0%	8.7%	21.7%	60.9%
	30代	14	14	28	6	1	7	35
	割合	40.0%	40.0%	80.0%	17.1%	2.9%	20.0%	65.7%
	40代	6	15	21	20	1	21	42
	割合	14.3%	35.7%	50.0%	47.6%	2.4%	50.0%	71.4%
50代	10	14	24	12	2	14	38	
割合	26.3%	36.8%	63.2%	31.6%	5.3%	36.8%	73.7%	
60代以上	3	3	6	5	1	6	12	
割合	25.0%	25.0%	50.0%	41.7%	8.3%	50.0%	58.3%	

### ③ 運動やスポーツをする目的

運動やスポーツをする理由として健康のためと回答した割合は77%で最も高く、次いで、楽しみ、気晴らしのためと続きましたが、体力増進・維持のため、筋力増進・維持のためと回答した割合も比較的高い結果となりました。

性別では家族のふれあいとして、美容のため、肥満解消・ダイエットのためと回答した割合が女性の方が高く、体力増進や筋力増進を目的に挙げた割合は男性の方が高くなりました。年代別ではどの世代も健康を挙げた割合が最も高いものの、30代で家族とのふれあいを目的に挙げた割合が高くなるなど、2番目以下の項目にはやや異なる傾向が見られました。

実施した運動やスポーツ	回答数	割合	
健康のため	134	77.0%	
体力増進・維持のため	79	44.9%	
筋力増進・維持のため	53	29.8%	
楽しみ、気晴らしとして	88	51.1%	
運動不足を感じるから	81	47.2%	
精神の修養や訓練のため	4	2.2%	
自己の記録や能力を向上させるため	9	5.1%	
家族のふれあいとして	37	22.5%	
友人・仲間の交流として	50	28.1%	
美容のため	19	11.2%	
肥満解消・ダイエットのため	64	36.5%	
分からない	1	0.6%	
その他	3	1.7%	
未回答	2	1.1%	
全体数	174		

年代別に見た運動やスポーツをする目的（上位5項目（同率項目含む））

20代	30代	40代	50代	60代以上
健康	健康	健康	健康	健康
肥満解消・ダイエット	運動不足解消	楽しみ・気晴らし	運動不足解消	体力増進・維持
楽しみ・気晴らし	楽しみ・気晴らし	体力増進・維持	体力増進・維持	楽しみ・気晴らし
体力増進・維持	家族のふれあい	運動不足解消	楽しみ・気晴らし	運動不足解消
運動不足解消	肥満解消・ダイエット	肥満解消・ダイエット	筋力増進・維持	筋力増進・維持

#### ④ スポーツを満足にできない理由

スポーツの実施状況に満足していない理由として最も多かったのは仕事や家事による多忙であり、経済的余裕がないという理由が続きます。年代別では20代から40代において子育てによりスポーツができないと考える割合が高く、特にスポーツを満足にできないと考える30代女性の7割が理由に挙げています。一方40代以上では加齢による体力の低下等によりスポーツができないと考え、60代以上の男性でその傾向が強くなっています。

また、どの世代でも共通して場所や施設がないことが満足に運動やスポーツができない理由として挙げられています。

満足にできない理由	回答数	割合	
仕事や家事が忙しいから	100	53.2%	
子どもに手がかかるから	44	23.4%	
病気やけがをしているから	16	8.5%	
年をとったから	45	23.9%	
場所や施設がないから	45	23.9%	
仲間がいないから	32	17.0%	
指導者がいないから	12	6.4%	
お金の余裕がないから	64	34.0%	
運動・スポーツが嫌いだから	12	6.4%	
面倒くさいから	24	12.8%	
運動・スポーツ以上に大切なことがあるから	9	4.8%	
生活や仕事で体を動かしているから	16	8.5%	
分からない	0	0.0%	
その他	3	1.6%	
未回答	1	0.5%	
全体数	188		

#### 年代別に見たスポーツを満足にできない理由（上位5項目（同率項目含む））

20代	30代	40代	50代	60代以上
仕事・家事	仕事・家事	仕事・家事	仕事・家事	加齢
子育て	子育て	金銭的余裕がない	加齢	場所・施設がない
金銭的余裕がない	金銭的余裕がない	加齢	金銭的余裕がない	病気やけが
仲間がいない	場所・施設がない	場所・施設がない	場所・施設がない	仲間がいない
場所・施設がない	仲間がいない	子育て	面倒くさい	日常の活動で十分

⑤ この1年で実施した運動やスポーツの種別

過去1年で実施した運動やスポーツは、ウォーキング（散歩含む）が最も多く、半数近くの回答者が実施しています。以下、体操（ラジオ体操・美容体操等）、自転車・サイクリングと続くなど、比較的手軽で専用の施設や場所に赴く必要がない運動やスポーツの実施率が高い傾向にあります。その他の種目では水泳が全ての世代で一定割合実施されているほか、卓球が40代、50代に比較的人気がありました。

また、本市はラグビーのまちを標榜していますが、実際にラグビーをプレーしたと回答した割合は全体で約3%に留まるなど、チーム競技や専用スタジアムで行う競技は比較的实施率が低い傾向にありました。

実施した運動やスポーツ	回答数	割合	
エアロビ・ヨガ	27	15.5%	
体操(ラジオ体操・美容体操等)	56	32.2%	
筋力トレーニング・重量挙げ	35	20.1%	
ダンス(社交ダンス・フラダンス等)	0	0.0%	
ウォーキング(散歩含む)	111	63.8%	
ランニング・マラソン・駅伝	21	12.1%	
水泳(飛込・シンクロ等含む)	32	18.4%	
スキー・スノーボード	9	5.2%	
登山・トレイルラン	16	9.2%	
ハイキング・オリエンテーリング	21	12.1%	
釣り	14	8.0%	
野球・ソフトボール	10	5.7%	
テニス(硬式・軟式)	5	2.9%	
バドミントン	11	6.3%	
卓球	20	11.5%	
ゴルフ(コース・練習場)	13	7.5%	
サッカー・フットサル	8	4.6%	
ラグビー・タグラグビー	5	2.9%	
ボウリング	25	14.4%	
自転車・サイクリング	54	31.0%	
ウィルチェアー(車いす)スポーツ	0	0.0%	
その他	19	10.9%	
未回答	1	0.6%	
全体数	174		

## ⑥ 自由記述の分類

スポーツを通じたまちづくりに関する自由記述意見を分類すると概ね下表のとおりとなり、利用者の立場から市内の公共施設や公園などに対して多くの意見が寄せられました。また、スポーツをするための場所がない(少ない)ので増やして欲しいといった意見が次いで多く、全体の約3分の1がスポーツに関する場所や施設についての意見や要望でした。本問および既述のスポーツが満足にできない理由から、本市においてはスポーツをする施設や場所に課題があるものと推測されます。

また、スポーツをするための教室等やイベントを開催して欲しい、講座や催しの開催情報が入手しにくいといった意見があり、現在の行政の取組みが不十分または市民に行き届いていないと感じている回答者が一定数いることが分かりました。

一方、ワールドカップを含むラグビーに関する自由意見が一定の割合で見られたことから、2019年のラグビーワールドカップ開催に向けた取組みにより市民の関心が高まったものと考えられます。

分類	回答者	割合	
教室や講座などに関すること	14	10.0%	
イベント・大会の開催要望など	23	16.4%	
スポーツに関する取組みの提案	5	3.6%	
ラグビー（ワールドカップ含む）に関すること	18	12.9%	
ワールドマスターズゲームズ2021関西に関すること	7	5.0%	
スポーツをする場所・施設への要望や意見	32	22.9%	
(主に既存の)施設・公園等への要望や意見	36	25.7%	
施設の利用料金など経済的な要望や意見	24	17.1%	
施設や催しの情報提供またはPR・広報に関する意見	15	10.7%	
ラグビー以外のスポーツへの要望や意見	17	12.1%	
スポーツとまちづくりに関する意見	17	12.1%	
ボランティアについての要望や意見	5	3.6%	
回答者ご自身の状況に関すること	9	6.4%	
その他上記分類以外の意見	23	16.4%	
意見なし	7	5.0%	
全体	140		



## Ⅱ. 課題 A (スポーツ実施を促進するための課題)

### (1) 世代・性別に応じたスポーツ参画施策の展開を

市政モニターアンケート調査の結果から、性別・年代グループごとに実施率や実施頻度に異なった傾向があることが分かったため、一律の取組みだけでなくグループの行動特性や課題に応じた細やかな施策展開に注力する必要があると考えられます。

#### < (例) 忙しい世代がスポーツに参画しやすい仕組みと工夫を >

年代別、性別にスポーツ実施率(週1日以上)を見ると、30代、40代の男性と20代、30代の女性が低い傾向にあるため、スポーツ実施を妨げる原因に対処する必要があります。30代、40代の男性は運動やスポーツを満足にできないのは仕事や家事が忙しいからだと答えた割合が他の世代に比べて高く、20代、30代の女性は運動やスポーツを満足にできない理由として家事・仕事および子育ての忙しさを挙げた割合が高い結果でした。共通して時間的余裕がないためにスポーツを満足にできないと考える方が多く、少しの時間でも取り組むことができるスポーツの提案や、日常生活の場面でスポーツに触れる機会を作るなど、スポーツをより身近にする工夫が求められます。

#### < (例) 義務的な運動・スポーツに楽しみを >

40代、50代の女性では過去1年間に運動やスポーツをした割合が、スポーツをすることが好き、どちらかと言えば好きと考える割合を上回っています。スポーツをする目的としては健康、体力増進、運動不足の解消を挙げた割合が他に比べてやや高く、運動やスポーツを義務的に行っている方が一定割合いるものと考えられます。スポーツの語源には、気晴らしや楽しむといった意味が含まれています。本来のスポーツの意義を再認識し、誰もが楽しむことができるスポーツを提案し、スポーツへの抵抗感の軽減と裾野の拡大を進める必要があると考えられます。

## (2) スポーツに参加する環境をより良いものに

スポーツを満足にできない理由として各年代の上位に挙げたのが、スポーツをする場所や施設がないというものでした。自由記述でもスポーツをする場所や施設に関する意見・要望が多く見られ、市民のスポーツ参画を促進するためには実施環境に関するニーズに対応する必要があると考えられます。スポーツをする場所としてスポーツ施設を利用した割合に比べ、道路や公園と答えた割合が高く、より身近な環境で運動やスポーツをする傾向が高いものの、安全性の確保や実施可能な種目が制限されるといった課題があります。市民ニーズに応え、誰もがスポーツに参画しやすい環境づくりを進めるため、スポーツ施設以外の公共施設等とも協働するための体制構築が求められます。

## (3) スポーツに関する情報発信の強化を

多くの方が多岐にわたるスポーツの有用性を認識する一方、スポーツ施設や公共施設等で行われる講座や教室、イベント等の情報が行き届いていないと考える意見が散見されました。市政だよりやウェブサイトによる情報発信に加え、SNSの活用や受取先に合わせた情報のアレンジなどにより能動的な情報発信を行うための施策強化が課題だと考えられます。

また、市から発信するスポーツ関連情報は発信元が複数の部局にわたっています。スポーツ情報の集約を行うなど市民がより情報を取得しやすい環境整備が必要であると考えられます。

### Ⅲ. 課題B（スポーツを通じたまちづくりの課題）

#### （1）スポーツの有用性と行政分野の関係および重点分野の整理を

スポーツの有用性は多岐にわたりますが、概ねP 2の図「スポーツが果たす役割」のとおり6つに大別されます。基礎自治体においてスポーツをまちづくりに活用するためには、まずスポーツと地域課題との親和性を整理する必要があります。本市も含め基礎自治体が抱える重要課題のひとつは、少子高齢化および人口減少です。これらの課題に対しスポーツに期待されるのは健康寿命を延ばすことや医療および介護関係経費の抑制であり、健康寿命を延ばすための取組みは人生を幸福に過ごすためにも重要なテーマであると考えられます。

また、スポーツに関する地域資源を観光施策に活かし、本市を訪れる旅行客を増やすことで交流人口の増加が期待できます。さらに、スポーツは障害の有無や性別、年齢の違い、言語の違いなどを容易に取り払うことができるインクルーシブな側面を持っています。この特性を活かし、相互理解を進め共生社会を実現することができるなど、ますます多様化する社会に対し、より則した形でまちづくりを進めるうえでも重要な役割を果たすものと考えられます。

そこで、本市においてはスポーツを通じたまちづくりを進めるための基盤を整備するため、各行政分野においてスポーツがどのような役割を果たすのか整理するとともに、積極的に取り組むべき施策の洗い出しが必要だと考えられます。

#### （2）スポーツおよび関連市場を拡大させるための協働の仕組みを

未来投資戦略2018ではスポーツ市場規模を2015年の5.5兆円から2025年までに15兆円に拡大することを目指すなど、スポーツ産業は今後の日本経済の柱のひとつとなる成長産業として期待されています。特に国際スポーツ大会が連続するゴールデン・スポーツイヤーは、インバウンド（訪日外国人旅行客）の急増とも相まって、スポーツを核としたまちづくりの絶好の機会だと考えられています。

本市は2019年ラグビーワールドカップ、2021年ワールドマスターズゲームズ関西大会に競技開催都市として参画するなど、ゴールデン・スポーツイヤーと密に関わる自治体です。観光施策としてスポーツツーリズムを推進することで交流人口の増加を図ることはもちろん、モノづくりのまち、また大学のまちとして官民学がスポーツ産業に参加することで、スポーツ市場の発展に寄与するとともにそこから受ける経済的効果を最大化する仕組みづくりが必要であると考えられます。

## 第4章 スポーツ関連施策

### I. 基本方針と施策展開の戦略

#### 基本方針1 スポーツに参画する多様な手段と機会の創出

誰もがスポーツに親しむことができる手段と機会の創出を図ります。そのため、年代や性別によって異なるライフスタイルに応じた細やかなスポーツ施策を展開するとともに、より気軽に身体を動かすことができる機会の提案や、異なるニーズに応じた情報の提供に注力します。あわせて、花園中央公園をスポーツのまちづくり拠点、さらには市の賑わい創出の核として位置付け、関係部局との協働のもと、よりよい環境整備に向けた取組みを進めます。

また、スポーツに参画する手段として「する」だけでなく「みる」、「ささえる」という様々な関わり方において促進施策を講じ、市民や事業者がスポーツに対し多角的に参画する機会の創出を図ります。

加えて、トップアスリートやプロの競技団体等との連携を進めます。トップレベルのスポーツを「みる」機会の充実を図るとともに、市民とプロスポーツ選手等がふれあう場を積極的に創出することで、市民がスポーツに対しより関心をもち、スポーツに参画する意欲が高まるものと考えられます。

さらに、障害の有無に関わらず誰でも一緒に楽しむことができるインクルーシブな考え方を採り入れたウィルチェアスポーツの推進において、スポーツ施設が集積する花園中央公園を中心としたスポーツのまちづくり戦略にウィルチェアスポーツを組み込み、より多くの方が参画できるよう機会の拡充と環境整備を進めます。

#### (関連指標)

- ・30代（男性、女性とも）の週1日以上スポーツ実施率
- ・トップアスリートやプロ競技団体等の連携イベントや取組みの開催



**基本方針2** スポーツを通じた心身の健康と活力の増進

スポーツが果たす重要な役割のひとつが健康寿命の延伸です。市政モニターアンケートでも多くの方が運動やスポーツを行う目的に健康の維持・増進を挙げたように、男女とも平均寿命が延びるなか、元気に自立して過ごすことができる健康寿命と、平均寿命のかい離を小さくする必要性を多くの方が認識しています。

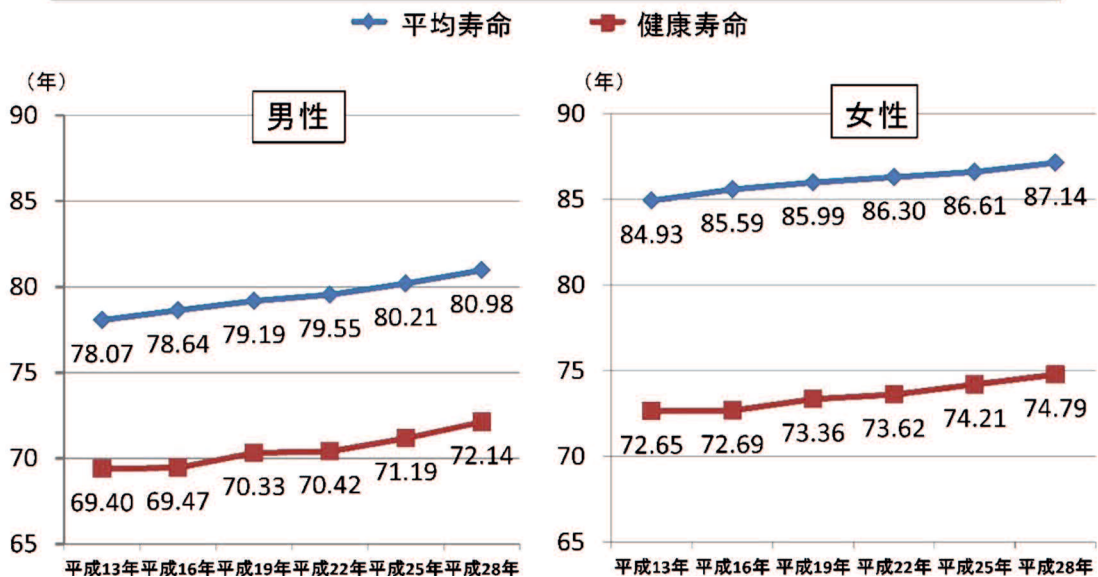
また、ひとりでも多くの方が心身ともに健康で豊かな生活を送ることで、今後益々の増加が予想される医療費の抑制も期待できます。これらを踏まえ、健康分野におけるスポーツの有用性の周知をさらに強化するとともに、スポーツを通じた心身の健康と活力の増進に寄与する取組みの拡大を支援します。

さらに、働いているときは時間的な余裕もなく、健康のために身体を動かす意識が持ちにくいと考えられます。働く世代の健康増進等を目的としたスポーツに対する意識を向上させるため関係部局が連携して取組みを進めるとともに、事業者によるスポーツへの理解を深めるよう働きかけます。

(関連指標)

- ・スポーツに関する取組みやイベントへの事業者の協力回数
- ・健康のために運動やスポーツを実施する市民の割合

## 平均寿命と健康寿命の推移



出展：厚生労働省ウェブサイト（第11回健康日本21（第二次）推進専門委員会 参考資料）

### 基本方針3 スポーツを活用した経済活性化と魅力の創造

スポーツ参画人口が増加することでスポーツ自体の社会的価値が高まり、スポーツ産業の規模拡大や地域ブランドの向上につながると考えられます。産業面では市民のスポーツ関連消費が増えるだけでなく、スポーツツーリズムの振興による交流人口の増加やスポーツ関連製品の需要拡大が期待されるものと捉え、既存のスポーツ関連施策を活用するとともに新たな取組みの創出による経済活性化を進めます。

また、ラグビーをはじめとするスポーツのまちづくりを、ゴールデン・スポーツイヤーズに加速させ「スポーツが盛んなまち」という価値を市民が共有するだけでなく、地域に人々を呼び込む観光資源として位置付け、賑わいの創出を図ります。

特にワールドマスターズゲームズ 2021 関西はこの期間を締めくくる大会であるとともに、30 歳以上であれば誰でも参加できる生涯スポーツの国際大会であることに加え、参加者が競技だけでなく開催地観光を目的としている点が特徴です。この大会の特徴を踏まえ、開催都市としてのノウハウを活用したスポーツツーリズムを東大阪市独自の大会レガシーとするため、「マスターズ花園」構想を打ち出しました。今後、関係団体等と調整し、2022 年の開催を目指します。

なお、ゴールデン・スポーツイヤーズを迎えるにあたり、東大阪市で競技を開催するラグビーワールドカップ、ワールドマスターズゲームズ 2021 関西はもちろんのこと、東京オリンピック・パラリンピックに対しても聖火リレー参加プログラムやホストタウン制度を活用するなど積極的な参画を図り、スポーツのまちづくりに関する施策の充実と取組みごとの連動強化を図ります。

ゴールデン・スポーツイヤーズに関連する取組みは P22 の表「【参考】ゴールデン・スポーツイヤーズにおける施策展開」で整理するとおり、方針 3 だけではなく本計画が定める他の基本方針にも密接な関わりがあるものと考えられます。

(関連指標)

- ・スポーツに関連する観光プログラムの数
- ・「東大阪市はスポーツが盛んなまちだ」と思う市民の割合



#### 基本方針4 スポーツを契機とした共生社会の実現

東京オリンピック・パラリンピックが近づくにつれ、特にパラリンピック競技への注目が高まっています。東大阪市では障害のある方がスポーツに参画する機会と環境の充実を進めるとともに、パラ競技を健常者も一緒に体験できるインクルーシブなスポーツとして推進します。

さらに、パラリンピアンとの交流によりユニバーサルデザインのまちづくりや心のバリアフリーを目指すプログラムである共生社会ホストタウンの登録に向けた調整を進め、ウィルチェアスポーツの推進との相乗効果の創出を図り、誰もが暮らしやすい共生社会の実現を目指します。これに際しまずは、車いすユーザーが訪れやすいまちづくりの視点を取り入れたウィルチェアツーリズムの取組みを進めます。

また、ゴールデン・スポーツイヤーズの3年間は、海外からも多くの方が東大阪市を訪れると予想されます。この期間を迎えるにあたり、海外を含む市外からの来訪者を市民一体となっておもてなしする取組みを積極的に進め、ゴールデン・スポーツイヤーズのレガシーとして多様な言語や文化を受け入れる土壌が育まれるよう注力します。

(関連指標)

- ・パラリンピック競技や障害者スポーツに関わる講座や教室、イベントの数
- ・スポーツ大会に関わるボランティア育成プログラムの実施数



【参考】 ゴールデン・スポーツイヤーズにおける施策展開

	ラグビーワールドカップ 2019日本大会	東京2020 オリンピック・パラリンピック	ワールドマスターズゲームズ 2021関西
2018	<ul style="list-style-type: none"> <li>・花園ラグビー場で対戦するチーム国との連携</li> <li>・大会機運醸成イベント</li> <li>・体験型観光プログラム企画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホストタウン、共生社会ホストタウン登録に向けた調整</li> <li>・オリパラフラッグ巡回展示の実施</li> <li>・beyond2020プログラムの活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東大阪市実行委員会の設立</li> <li>・参加者獲得に向けた周知活動</li> <li>・レガシー大会「マスターズ花園」の創設発表</li> <li>・オープン競技開催に向けた調整</li> </ul>
2019	<b>大会開催（9/20～11/2）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パブリックビューイング、関連イベントの実施</li> <li>・体験型観光プログラムの活用</li> <li>・ワールドマスターズゲームズ開催に向けたノウハウの継承</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・beyond2020プログラムの活用</li> <li>（共生社会ホストタウン制度に基づく海外パラ競技チームとの事前交流）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・円滑な大会運営に向けたテスト大会の実施</li> <li>・参加者獲得に向けた周知活動</li> <li>・マスターズ花園準備委員会の設立（・オープン競技開催に向けた準備）</li> </ul>
2020		<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリパラ啓発事業の実施</li> <li><b>オリンピック開催（7/24～8/9）</b></li> <li><b>パラリンピック開催（8/25～9/6）</b></li> <li>・パブリックビューイング、関連イベントの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大会開催1年前に合わせたプレ大会の実施</li> <li>・参加者獲得に向けた周知活動</li> <li>・マスターズ花園実行委員会の設立（・オープン競技開催）</li> </ul>
2021		<ul style="list-style-type: none"> <li>（共生社会ホストタウン制度に基づく海外パラ競技チームとの事後交流）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>（・オープン競技開催）</li> <li><b>大会開催（5/14～5/30）</b></li> <li><b>（ラグビー競技5/15,16,22,23）</b></li> <li>・体験型観光プログラムの活用</li> <li>・マスターズ花園開催準備</li> </ul>
2022 ?			<ul style="list-style-type: none"> <li><b>マスターズ花園開催（5月）</b></li> <li>・体験型観光プログラムの活用</li> </ul>

※ 2019年以降の取組みには現在調整中または実施に向けて検討中のものを含みます。



## Ⅱ. 行政分野ごとのスポーツ関連施策

行政分野		取組みの概要
スポーツ	ラグビー	<p>花園ラグビーワールドカップ2019推進室において、ラグビーワールドカップ開催に向けた各種事業や機運醸成に取り組むとともに、改修後の花園ラグビー場の活性化策を検討しています。</p> <p>また、全国高等学校ラグビーフットボール大会思い出作り支援事業や小中学生を対象にしたラグビー普及啓発の取組み等により、ラグビーのまちづくりを推進しています。</p>
	スポーツのまちづくり	<p>スポーツのまちづくり戦略室において、生涯スポーツの祭典ワールドマスターズゲームズ2021 関西に向けて取り組んでいます。さらにレガシーとして、マスターズ世代を対象に「マスターズ花園」を創設。2022年開催に向けて準備を進めています。</p> <p>また、インクルーシブな考え方の普及や共生社会の実現に資する取組みとして、障害の有無等に関わらず楽しめるウィルチエアー（車いす）スポーツを推進しています。</p> <p>さらに、東京オリンピック・パラリンピックへの参画プログラムの活用を進め、ゴールドen・スポーツイヤーズの取組みの拡充を図ります。</p>
	生涯教育	<p>社会教育部では体育連盟やスポーツ推進委員協議会と協働し、市民体育大会や体育の日スポーツ祭典、地域体育事業など市民を対象としたスポーツ振興施策を実施しています。</p> <p>また、各競技協会との連携を進め、硬式・軟式野球やソフトボール、グラウンドゴルフ等の大会開催を支援するとともに、ボッチャなどニュースポーツの普及にも取り組むことで多岐にわたる競技への参加機会を確保し、スポーツ振興の礎を形成しています。</p>

行政分野	取組みの概要
健康	<p>健康部では東大阪市健康増進計画「健康トライ21」の7つの分野の1つである身体活動・運動を推進するための様々な事業を行っています。健康フェスタや、自治会など地域での普及・啓発のためのイベント、市民グループと協働したウォーキングやラジオ体操等の事業を展開し、運動を継続できるような支援もしています。また国民健康保険加入者を対象とした水中ウォーキング、ノルデックウォーキング、インターバルウォーキング等の教室を実施し、壮年期死亡の減少・健康寿命の延伸および生活の質の向上を目指しています。</p>
福祉	<p>福祉部では障害者スポーツ大会の開催を支援しているほか、老人クラブへの支援を通じて高齢者のスポーツ参加を促進するとともに、英語での簡単な道案内を想定したおもてなし英会話教室を開催するなどしています。</p> <p>また、介護予防を目的に市独自で作成した「楽しくトライ体操」の普及啓発を進めるとともに、地域包括支援センターにおいて運動や体操を採り入れた介護予防教室を開催しています。</p>
経済 観光	<p>経済部ではラグビーワールドカップの開催を商機につなげ、市域経済活性化を目的に商店街にノボリやつり銭トレイ等の配布を行ったほか、中小企業向けのゆとりーと共済の会員は優待価格でスポーツ施設を利用することができ、東大阪アリーナプールも対象施設に選ばれています。</p> <p>また東大阪市版DMOである（一社）東大阪ツーリズム振興機構では観光振興の柱のひとつとしてラグビーのまちを生かしたスポーツツーリズムの推進を掲げ、地域経済効果の創出を目指しています。</p>
インフラ 整備	<p>都市整備部では花園セントラル球場で開催されるプロ野球ウエスタンリーグ公式戦の開催を支援し、スポーツを“みる”側面から振興しています。</p> <p>また、花園セントラル球場において開催される高校野球の予選大会時には選手用トイレをダグアウト内に仮設し、大会運営を支援しています。</p>
その他の 取組み	<p>環境部では東京オリンピック・パラリンピックに関連する取組みとして2018年度まで実施された、みんなのメダルプロジェクト（金、銀、銅メダルの作製に際し、小型家電リサイクルで回収した金属を活用）に参画しました。</p> <p>また、人権文化部では、東京オリンピック・パラリンピックを契機に文化施策を発信するためのプログラム、ビヨンド2020の活用を進めています。</p>

## 第5章 計画推進のために

### I. 施策展開における協働の推進

4つの基本方針（P7掲載）を定めてスポーツ関連施策を展開するにあたり、スポーツが様々な行政課題を解決するためのツールであると捉え、関係部局との連携強化を積極的に進めます。

また、スポーツに関わる取組みや活動は行政においてのみでなく企業、団体、学校など様々な主体が実施しています。本計画では既述の課題に取り組む方策として、行政施策を主軸にしていますが、事業者や関係団体との協力体制の構築を推進し、官民学協働のもと、より効果的かつ効率的に計画を推進します。

### II. 計画推進のための財源確保

厳しい財政状況に鑑み、国や大阪府に財政支援を求めるとともに、スポーツ振興くじ助成制度等の支援策を積極的に活用した財源確保を進めます。

また、事業実施にあたっては民間協力者の獲得を図り、市の財政負担を軽減するよう努めます。

### III. 計画の評価、見直し

本計画では計画目標を基準に進捗状況を管理し、PDCAサイクルを用いて年度ごとに検証を行うとともに、必要に応じて個別方針や施策に指標を設定し、進捗管理を補完します。

また、社会情勢や国・大阪府、他の自治体の動向を注視し、適宜計画の見直しを行います。